

1 この科目の構成について

教科	商業	科目	簿記	単位	3単位
対象コース	情報ビジネスコース	対象クラス	3年7組		
使用教科書	●新簿記（実教出版）				
使用副教材	(1)配付プリント				

2 この科目の目標・学習内容・学習方法について

学習目標	—この科目を学習して何を身に付けてほしいのか—
	企業において日常発生する取引を仕訳し、勘定記入を経て、決算に至る簿記の基本的な仕組みについて理解する。 帳簿や財務諸表を通して、ビジネスの諸活動を計数的に把握する能力と態度を育てる。
学習内容	—この科目で学習する大まかな内容—
	(1) 講義中心になりますが、毎時間問題演習をすることで、理解を深めていきます。 (2) 全国商業高等学校協会主催 簿記検定2級取得・日本商工会議所主催 簿記検定2級を目指した学習をして行きます。
学習方法	—この科目を学校と家庭でどのように学習すればいいのか—
	(1) 学校 帳簿記入などの実技は、教師の説明・指示を良く理解し、授業に集中して取り組む必要がある。 授業中は、教師の説明を聞き逃さないよう集中し、良く理解すること。私語は大迷惑。 (2) 家庭 全国商業高等学校協会主催 簿記検定2級 検定試験・考査の範囲については、家庭での予習・復習が必要である

3 この科目の評価方法について

評価方法	—何をを使って評価するのか—
	(1)定期考査→第1・2・3・4・5回考査に行います。 (2)授業中での課題作成→授業中に課題を提示します。
評価における定期考査の割合	
	60%

4 この科目の評価の観点について

評価の観点	—この科目の学習内容はどのような基準で評価されるのか—
	1) 関心・意欲・態度 ・ 問題演習に積極的に取り組んでいるか ・ 重要なポイントについてはきちんと自分なりにメモしているか ・ 授業で解いた問題以外にも自発的に取り組んでいるか ・ 居眠り、忘れ物、授業に不要なものの持ち込み（減点項目） (2) 思考・判断 ・ 状況に応じた処理ができるか (3) 技能・表現 ・ 適切な処理に基づいた集計、作表ができるか (4) 知識・理解 ・ 適切な処理に基づいた集計、作表ができるか

年間学習計画		—この科目でいつ・何を・どのように学ぶのか—		重視する評価の観点			
期	月	学 習 の 項 目	学 習 の 内 容	関	思	技	知
	4	第6編 取引の記帳(その2) 第26章 特殊な商品売買の取引	○割賦販売・委託販売・未着商品売買・試用販売・予約販売の意味を明らかにし、それぞれの記帳方法を理解させて、習熟をはかる。	●	●	●	●
	5	第27章 特殊な手形の取引	○自己受為替手形の手形関係を明らかにし、その記帳方法を理解させる。 ○手形の書き換えの意味を明らかにし、その記帳方法を理解させる。 ○手形が不渡りになった場合の処理手続きと記帳方法を理解させる。 ○荷付為替手形の意味を明らかにし、その記帳方法を理解させる。 ○手形の保証債務の意味を明らかにし、その記帳方法を理解させる。 ○第1回定期考査	●		●	●
	6	第7編 仕訳帳の分割 第28章 仕訳帳の分割	○単一仕訳帳制度による記帳の流れを復習させ、記帳の合理化の意味を明らかにし、その方法について理解させる。 ○特殊仕訳帳・仕訳帳の分割の意味を明らかにし、複合仕訳帳制度のしくみとその長所を理解させる。 ○第2回定期考査	●	●	●	●
	7						
	8		○現金出納帳・当座預金出納帳・仕入帳・売上帳を、それぞれ特殊仕訳帳として用いた場合の記帳方法、転記のしかたを十分に理解させ、習熟させる。 ○第3回定期考査	●	●	●	●
	9	第29章 5伝票による記帳					
	10		○仕入伝票・売上伝票の起票のしかたを理解させる。 ○5伝票の集計・転記のしかたを理解させる。	●	●		●
	11	第8編 本支店会計 第30章 本支店の取引	○支店会計の独立の意味を理解させる。 ○支店会計が独立している場合の本支店間の取引、支店相互間の取引の記帳方法を理解させる。 ○第4回定期考査	●	●	●	●
	12	第31章 本支店の財務諸表の合併	○本支店合併の損益計算書・貸借対照表の作り方を理解させ、その作成に習熟させる。	●	●	●	●
	1						
	2		○全国商業高等学校協会主催簿記実務検定2級		●	●	●
	3	発展編 株式会社の取引 第32章 株式会社の取引(その1)	○株式会社の設立と株式の発行時の記帳方法を理解させる。 ○純利益の計上と剰余金の配当および処分に関する取引の記帳方法を理解させる。	●	●	●	●

